

防災だかしま 万が一に備えて。

琵琶湖西岸断層帯地震想定

避難者想定数 10,527人
(震源が高島市の場合)

4月14日、滋賀県は琵琶湖西岸断層帯でマグニチュード7.8の地震が発生した場合の被害予測を発表しました。昨年12月にまとめられた震度予測調査と同様に、震源が異なる3つのケースが想定され、震源が高島市で早期に発生した場合、死者数317人、建物被害では全壊が10,861棟、半壊が5,512棟、避難者数は10,527人と試算されています。

今月は、県が発表した被害予測の内容を改めてお伝えするとともに、市が対策を進めていることについてお知らせします。

琵琶湖西岸断層帯地震想定

琵琶湖西岸断層帯とは、マキノ町から大津市までの9つの断層からなる長さ約59kmの断層帯です。高島市には、知内断層、饗庭野断層、上寺断層、勝野断層の4つの断層があります。また市内には、京都市市街地北東部から今津町まで、約45kmにわたって延びる花折(はなおり)断層もあります。歴史的に見てみると、1185年(文治元年)琵琶湖北西付近でM7.4、1662年(寛文2年)琵琶湖西岸でM7.6の地震が発生し多くの被害をもたらしています。

今回の想定では、琵琶湖西岸断層帯による地震(震源が異なる3ケース)と、花折断層帯による地震想定の詳細が発表されました。

琵琶湖西岸断層帯の位置図



1: 石橋地点 2: 張川地点 3: 粟田地点 4: 鈴江付道 5: 北長押地点
6: 鳥野地点 7: 衣川地点 8: 比叡社地点 A: 文蔵B
断層帯の位置は文献4及び文献8に基づく。
*: 断層帯の北端と南端
※図は国土院発行地質図20000「岐阜」、「名古屋」、「宮津」及び「京都及大阪」を引用

※断層
地殻が一つの面を境にして互いにずれているところです。この断層のうち今後必ずずれ動くと考えられる断層を活断層といいます。直下型といわれる地震のほとんどがこの活断層のずれでおこるものです。

「地震被害想定表」 (高島市内での想定数)

想定地震	発生時刻	建物被害		人的被害		地震火災 炎上出火件数	避難者数
		全壊棟数	半壊棟数	死者数	負傷者数		
琵琶湖西岸活断層地震 震源が高島市の場合	早朝			317	595	8	10,527
	昼間	10,861	5,512	253	447	18	
	夕刻			234	442	18	
琵琶湖西岸活断層地震 震源が大津市西部の場合	早朝			189	719	5	8,718
	昼間	7,403	5,947	149	541	11	
	夕刻			142	527	11	
琵琶湖西岸活断層地震 震源が大津市と志賀町の境の場合	早朝			162	751	4	8,216
	昼間	6,686	5,924	130	582	10	
	夕刻			121	556	10	
花折断層地震	早朝			37	785	2	4,953
	昼間	2,174	5,396	32	633	4	
	夕刻			28	587	4	

※想定時期は、火災発生等に影響の大きい冬季の夕刻が基本。また、地震発生時刻の違いによる被害量の差異を把握するため、他の時間帯についても検討された。
※早朝は5時頃、昼間は15時頃、夕刻は18時頃を想定。
※避難者数は、避難所生活者の最大数。

6月1日 総合防災課設置

減災に対応するために、総合防災課を設置します。

市では、琵琶湖西岸断層帯による地震災害をはじめとする各種災害への対応を専門的に処理するため、6月1日より総務部に課長以下3人の体制で総合防災課を設置します。また、今後、災害発生時の危機管理を担当する「防災監(仮称)」の設置についても検討をしていきます。

【主な業務】

- ・高島市の地震防災計画の策定を早急に進めます。
- ・各地域における自主防災組織の設置と育成を積極的に進めます。
- ・市民の皆さんに自主防災意識を高めていただけるよう、地域に向向いての「出前講座」や広報活動をを行います。

「災害時」のための、市内の備蓄状況と物資供給協定。

市内には、防災の中核を担う施設として6ヶ所に防災センター(ステーション)を設置し、災害発生時に外部からの援助物資が届くまでの間、生活等ができる備蓄品を整備しています。現在、市内に備蓄されている備蓄資材は「防災資機材リスト」のとおりです。

しかし、これだけあっても市内の被災者全員に最低限必要な数の確保はできていないのが現状です。そこで市では、災

「防災資機材リスト」 平成17年4月1日現在

品名	合計	品名	合計	品名	合計
アルファ米	2,650	簡易トイレ	46	コードリール	7
パンの缶詰	900	簡易トイレ(車椅子用)	3	メガホン	24
ウイナー缶	480	簡易トイレ(小便器)	6	簡易水槽	4
乾パン	3,844	担架	24	油圧ジャッキ	6
フルーツ缶	960	車椅子	8	チェンソー	7
リッツ	1,290	ビニールシート	440	パーソナル無線	24
みそ汁缶	600	濾水機	10	災害救助工具セット	50
おかずの缶詰	600	揚水型給水タンク1,500ℓ	3	レンジャーロープ	1
飲料水	900	給水タンク	10	ガソリン携行缶	20
粉ミルク	15	ポリタンク(20ℓ用)	150	大型テント	3
食器セット	548	給水タンク(5ℓ用)	1,200	ヘルメット	200
炊飯袋	1,000	空気呼吸器	4	鋼板入り長靴	110
毛布	1,474	ローソク	50	コーン	10
救急箱	25	懐中電灯	33	コーンバー	20
大人用オムツ	55	ラジオ付ライト	25	バリストーン	9
子供用オムツ	42	キャップライト	59	カセットコンロ	13
生理用品	55	乾電池 単I	600	炊き出し器具	3
ほ乳瓶	45	乾電池 単II	100	バット	6
肌着	160	乾電池 単III	400	小型動力ポンプ	4
タオル	200	発電機	10	デザインボード	9
ウレタンマット	350	投光器(発電器付含)	8	標示板	17

「災害時物資提供一覧表」 (コープしが協定より)

水(pet)・烏龍茶(pet)・缶ジュース・紙パックジュース/オレンジ・紙パックジュース/りんご・インスタントカップ麺/シーフード・インスタントカップ麺/醤油味・カップ麺/きつねうどん・カップ麺天ぷらそば・ご飯(レトルト)・赤飯(レトルト)・切り餅(個包装)・缶詰(イワシ)・缶詰(サバ)・缶詰(サンマ)・石けん・はぶらし(スリムタイプ)・はみがき(デンタル)・トイレトーパー・マスク(大人用)・マスク(子供用)・貼るカイロ(レギュラーサイズ)・アルカリ乾電池 単1~単4

自主防災組織に参加しましょう。

大地震のような規模の大きな災害のときは、交通網の寸断、通信手段の混乱、同時多発の火災などで、すぐには消防や警察などの救援が得られないおそれがあります。そのような時に頼りになるのが地域をつくる自主防災組織です。

【主な役割と活動】

- ・地震のときの火の始末の啓発
- ・機動的な消火活動の体制の整備
- ・弱者への支援
- ・避難誘導
- ・心の支え合い、健康保持の協力
- ・給食・給水活動への協力
- ・情報収集・伝達の協力 など

地域防災は、自主防災組織を中心とした、向こう三軒両隣の協力助け合いにより被害などを最小限度に止めることが目的です。こうした「まとまった力」は、自然にできあがるものではなく、地域の人々の意思と意気込みと協力でつくられるものです。

今月号でお知らせしたように、市では万が一に備えての対策を進めています。災害発生時に一番の力を発揮するのはやはり地域です。どうか、みなさん一人ひとりが「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えで自主防災組織の設置と参加に協力をお願いします。

(総合防災課)